

パソコンを習得するためには

河村 孝

パソコンの普及率が約五割

二〇〇一年四月二十四日総務省発表によると、パソコンの保有率は約半数の世帯が保有するまでになったそうです。また、インターネットを利用する世帯の割合は、19.1%から34%まで上昇し、三世帯に一世帯がインターネットを利用するまで普及したそうです。この急激な普及は、パソコンの低価格化、政府のIT施策の効果等さまざまな要因が考えられますが、いずれにせよ、「特別な人」が使う「特別な道具」では完全になくなりました。私たち庶民が使う、「身近な道具・機械」になったのです。

パソコンとの格闘！？

中高年でパソコンを始められる方も増えてきました。しかし、せっかく新しい世界との出逢いを楽しみにして始められたのに、なかなか習得できず悩まれている方も多いようです。取り扱い説明書や解説本と格闘されていたり、中には、パソコンの前で頭を抱え込んでいるような方もいらっしゃるようです。

とはいえ、パソコンは一般的な道具や機械とは違い、全ての機能を知らないとは全く使えないものではありません。詳しく知ると確かにもっと便利になる機能はありますが、たとえ知らなくてもそれですんでしまう機能も数多くあります。

「一般的にパソコンは、全機能のうち20%しか使っていない。」と指摘する識者もいます。これは、パソコンを使いこなしていないという事ではなく、そのたとえ20%でも、道具としては満足しているという事です。

また、せっかく難しい機能をようやく使いこなせるようになったとしても、パソコンが進化して、複雑な操作で行っていた事がボタン一つで行えるようになるといった事もよくあります。

つまり、パソコンを全て習得することなど必要ないと考えてから学んだほうが、気が楽になりますし、効率的ではないでしょうか。

キーボードとの格闘

特にキーボードの操作で、決められた指で決められたキーを打つというブラインドタッチを一生懸命学ばれている方もいらっしゃいますが、文字入力を職業とされる方以外はそこまで神経質になる必要もないと思います。まず私もできませんし、私の知り合いでパソコンのベテランと言われている方でさえもそこまでできる方はほとんどいませんのでご安心ください。

また、文字入力で悩まれる方が多いですが、最初はおぼつかなくても使っていくうちにだんだん慣れていきますので安心してください。

失敗が一番の上達法

またどのような習い事でも同じだと思いますが、特にパソコンでは失敗をすればするほど、上達が早いようです。

私も今思い出しても恥ずかしくなるような失敗を何回もしました。特にデータ(パソコンに入れていた情報)を間違っ

もう二度と同じ失敗をしないように、大事なデータは二重三重で保管するなど、気をつけています。

身近なところに小さな目標を立てよう

ある程度使いこなせるようになったら、パソコンを学ぶためにパソコンを学ぶよりは、何か目標を立てて学んだ方がいいようです。

たとえば、このパソコンを使って海外へ英語のメールを出そうとか、地区の行事案内を作ろうとか、そういった身近なところにある小さな事で構いませんので目標を立てて、挑戦された方が習得は早いようです。また、その方が達成感や充実感があります。

そしてなによりも、「パソコンで楽しもう」という姿勢が大事だと思います。少々できなくても、いいやとさえ思うような姿勢が大事です。

パソコン友達を作りましょう

パソコンを楽しむためには、パソコンの事で話ができる友達を作ることも重要です。パソコンがここまで普及してきますと、近所の方や身近な方でパソコンに詳しい方や自分とほぼ同時に始めた方が探せば必ずいらっしやると思います。そのような方とぜひとも友達になりましょう。ちょっとした話が解決のきっかけになることがよくあります。また、パソコンのベテランの方は、多くのベテランの方との普段の交流があります。

またパソコンの勉強はややともすると、一人で何時間も部屋の中でもってしまいがちです。時にはパソコンの前を離れて、外へでかけてみましょう。

IT講習会で

現在ある町でIT講習会の講師をしています。四日間の講義を終えた二、三日後にうれしいハガキが届きました。受講が終わってすぐ次の日に近くの電気屋さんと同じ受講者の方とパソコンを購入しようと思に行きましたとのご年輩の主婦の方のご報告でした。またそのハガキの中で「受講中感じた途方もない広い世界の一端でもかいま見られたらとの思いもあります。孫とのメール交換などできたらいいなと夢みたいな事も考えています。」との希望も書いていらっしやいました。

その積極的な姿勢に感心した私はすぐにハガキを書きました。「その積極的な姿勢には頭が下がる思いです。きっと上達されると思います。応援しています。」

IT講習会盛んな今きっと全国各地で、パソコンを習得しようと多くの方が希望に夢ふくらませていることでしょう。